

美しくつかしい、日本をのせて。

# Cradle

【クレードル】出羽庄内地域文化情報誌

**1** 2012 January/February  
TAKE FREE  
NO.9

特集  
庄内の  
冬のたのしみ  
庄内憧憬  
上野 榮枝  
元三井製糖代表取締役社長

Cradle **1** 美しくつかしい、日本をのせて。  
【クレードル】出羽庄内地域文化情報誌

2012 January/February  
平成24年1月1日発行（毎月奇数月発行）第2巻3号（通巻9号）

発行／Cradle事務局 山形県鶴岡市山王町8-15 株式会社 出羽庄内地域デザイン 電話0235 (64) 0888  
制作／Cradle編集部 山形県酒田市京田2-59-8 コマツ・コーポレーション 電話0234 (41) 0012

FIDEA GROUP

謹賀新年



遊佐町／鳥海山

地域の皆さまと共に歩みつづける荘内銀行は  
日頃のご愛顧を深謝し皆さまのご健康とご発展を心よりお祈り申し上げます  
本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます  
2012年 元旦

 荘内銀行

緑一色に覆われた庄内平野は生命の営みの力強さを感じさせ、収穫を前にした黄金色の稲穂は豊かさを感じさせます。

庄内の文化・歴史・自然・ライフスタイル、さらに味覚等を地域の内外に発信し続けたスプーンが休刊となり淋しい思いをしていましたが、

## 美しく、力強い庄内。 上野榮枝

|| 文

そのDNAを受け継ぎ、さらに内容を充実させたクレードルが誕生したことを、大変嬉しく思います。スプーンは酒田の3万戸以上の家庭に毎月無償で配布され、このような素晴らしい且つスケールの大きい文化事業を18年間も続けられた、コマツ・コーポレーションの前社長で私の畏友、佐藤孝氏と現社長の佐藤茂枝氏、およびスプーンの編集部の方々に満腔の敬意を表する次第です。

ところで、庄内という言葉を聞くと最初に目に浮かぶのは鳥海山と最上川です。私は庄内空港行きの飛行機に乗るときは必ず窓側に座ることになっていますが、鳥海山と最上川を見たいからです。余談ですが、昨年2月に素晴らしい経験をしました。飛行機が空港に向かって降下中のことです。鳥海山を中心に空は一面鈍色に覆われ、降り積もった雪が黒々とした木々の間に白い絨毯を敷き詰めた様に見え、まさに一幅の墨絵で、

自然の織り成す名画に思はず息を飲んだ次第です。

汽車から見る鳥海山には特別な思いがあります。今から61年前、東京の大学に入り、初めての夏休みで帰省したときのことです。汽車の窓から鳥海山が見えた瞬間に、久し振りに見る故郷の山と、もうすぐ会える父母への思いが重なり、懐しさで胸に熱いものが込み上げてきました。両親は既に亡くなりましたが、今でも酒田を訪れて車窓から鳥海山を見るたびにあの時の思いが蘇ります。

私は通算20年間、カナダ、アメリカに住みましたが、最上川の縁でしゅうか、住んだ各都市でそれぞれ川との出会いがありました。最初はカナダ東部のキングストンという町を流れるセントローレンス川。昭和32年私が25歳の時に留学生として初めて行った外国の地でもあり、特に思い出の深い川です。その後はアメリカ西部オレゴン州ポートランドのコーンビア川。ポートランドは小麦や木材の積出港で親日的な町です。次にニューヨークのハドソン川。ちなみに私が住んだアパートは川の縁に



建っており、早春、上流から大きな氷塊がギギギと音を立てながら流れて来るのは壮観でした。最後は南部テネシー州メンフィスのミシシッピ川。アメリカ最長の川で、メンフィスはその昔、棉花の輸出で栄え、ここにはエルビス・プレスリーの墓があり、多くの日本人が訪れます。私は約4年前から隅田川を見下ろすマンションに住んでいます。隅田川はミシシッピ川やハドソン川ほどの雄大さはありませんが、穏やかな水の流れを見てみると心が和みます。最後にぜひ触れたいのは、庄内平野の美しさと力強さです。緑一色に覆われた初夏の庄内平野は生命の営みの力強さを感じさせ、収穫を前にした黄金色の稲穂は豊かさを感じさせます。私はこの様に自然に恵まれ、人情も豊かな庄内平野で育てられたことを、ありがたく、また、誇りに思っている次第です。

うえの・えいし / 1932年生まれ。51年酒田東高校、55年東京大学法学部卒業後、三井物産入社。米国三井物産副社長兼ポートランド支店長、同ニューヨーク本店、同メンフィス支店長、三井物産本店取締役食品部長、同代表取締役常務、食品部門統轄役員を経て、91年三井製糖代表取締役社長に就任。02年同社相談役、04年同社退社。酒田出身者や酒田ゆかりの方々が集うふるさと会「ふれあい酒田」の会長を、88年の創立から12年間務めた。米国テネシー州名譽州民、テキサス州ラボック市、オレゴン州ポートランド市、名譽市民。東京都在住。



# 庄内の 冬の たのしみ

春夏秋の色彩が純白につつまれる庄内の冬。  
肌にささる冷たい風にも耐え、  
自然のままを受け入れようとする、  
人々の営みのたくましさや  
実感する季節でもあります。  
いつものわが家や町のあかりに、  
ひととき暖もりを感じるのも冬だからこそ。  
食文化、風景、自然体験、生活文化。  
雪国暮らしのたのしみを知る皆さんに、  
それぞれ案内していただきました。

編集||Cradle編集部  
7ページだるま市・14ページ写真撮影||東海林晴哉

Special Edition



こたつ舟から眺める雪景色はまさに水画の趣。船頭さんの当地民謡を楽しみながら約1時間の舟の旅。

**今**

年も庄内の田んぼには、白鳥が来ています。この光景が見られるともう冬。庄内町から船番所のある戸沢村までの通勤途中、立川町にある風車が勢いよく回ると、車は時折風にあおられ、ハンドルを持つ手に思わぬ力が入ります。国道47号沿いに流れる最上川には西風が吹いて白波が立ち、川岸には風を避けるようにして寄り添うカモの姿が見られます。

**私**

の実家がある庄内町は昔から米作りが盛んで、最上川の堤防沿いにある田んぼには、昔の洪水の名残で川砂が混じり、その土がおいしいお米を育てるといわれています。私も春先、船頭の仕事が休みの日には実家の農作業を手伝うことがあります。このあたりは清川ダシに代表される局地的な強風が吹く土地柄。作業期間中、必ず1日は強い風に見舞われ、苗箱ごと飛ばされそうになりながら作業をしていると、ランナーズハイならぬ、田植えハイ!?

その豊かな大地の母なる川、最上川舟下りの船頭になって6年。私は舟の支度をしながらお客様を迎える心の準備をする、その時間がとても好きです。掃除が終わると舟の外に出て、移ろう最上峡の風景を肌で感じると、心が穏やかになっていくような気がします。

**そ**

観光船だけではない最上川の魅力に触れられるのもこの仕事の醍醐味。秋には先輩の船頭さんに「モクス蟹」をいただきました。これは最上川でとれる川蟹で、今では上手な食べ方を知って少し得意気になっています。そして夏には鮎をいただいて、春には山菜取りに連れて行ってもらいました。ささ舟で対岸へ行くと、太くて柔らかい上質なわらびがとれます。こうした四季の楽しみを知って、以前よりも最上川が身近に感じられるようになった気がします。

山紫水明の名所、最上峡。静謐なモノクロの冬景に彩りを添える女性の船頭さんが活躍しています。



一幅の絵に例えられる最上峡の四季。雪化粧をした冬ならではの光景は、息をのむ美しさです。

最上川芭蕉ライン舟下り  
 戸沢村古口86-1  
 電話 ☎ 0233-72-2001  
 年中無休  
<http://www.blf.co.jp>  
 ※こたつ舟の運航は12月～3月



2月11日～12日、舟下り乗船場「戸沢蒲船番所」で「とざわ雪の一夜街」を開催。

最上峡の風景に心穏やかに  
 私のお好きな時間。

**そ**

うになった気がします。して冬。舟下りでは12月から恒例のこたつ舟を運行しています。暖かい船内から眺める冬の最上峡は格別の味わいです。また昨年からは船番所で「とざわ雪の一夜街」を開催しています。ろうそくに照らされた雪灯りが寒さを温かく包み込む、最上川の新しい冬の景色がまたひとつ加わりました。雪国に住む私たちにとって、雪は厄介なものですが、親しみを持って見て楽しんでみるのも良いのではないのでしょうか。私は今年も、大きなかまくらが作れるくらいの雪を期待したいところです。

**案内人**

星川遼子さん

Hoshikawa Ryoko  
 最上川舟下り 船頭

庄内町出身。羽黒高等学校、桜美林大学を卒業後、最上峡芭蕉ライン観光(株)に入社して7年目。「癒しNo.1」の女性船頭として活躍。庄内弁でのガイドと民謡が得意。



庄内町の風車

ささ舟

モクス蟹

陽を浴びて輝く雪、清澄な空気がおおう山々。  
自然遊びの達人と銀世界に出かけませんか。

鳥海やわたインタープリター協会  
活動エリア:酒田飽海地区  
活動内容:植物観察会や登山、野鳥観察会など  
会中村△0234-22-4056  
※「氷瀑の玉簾と「滝の里」冬満喫体験」  
のイベント詳細は40ページをご覧ください。



八幡自然学校では  
地元小学生と  
ごっこしめを体験。  
昨夏は石巻市の  
被災児童と  
残雪の鳥海登山を  
楽しみました。



鳳来山の山頂に向かう山道。  
カンジキを履き、雪を“こいで”歩く。



誰の足跡もない木々の間や雪原を自由に歩き、  
ささやかながら一時の開放感を楽しんでいる。

瀑と称される「玉簾の滝」は、  
地球温暖化の影響なのか、以前  
のように青白く完全結氷するこ  
とがなく寂しいかぎりであるが、  
それでも氷柱に覆われた高さ63  
メートルの滝は一見の価値があ  
る。期間限定ではあるがライト  
アップされた氷柱の美しさと迫  
力は、ぜひとも間近で見ていた  
だきたい光景である。

3月は深雪をかき分け、鳳来  
山に登るイベントも開催してい  
る。標高858メートルとさほ  
ど高い山ではないが、そこは雪  
深い鳥海山に隣接する山。カン  
ジキを履いても膝まで沈む雪原  
を、自分の足を踏まないようガ  
ニマタで歩くのも皆さんにとつ  
ては楽しい思い出のようである。  
運が良ければカモシカに出会っ  
たり、野ウサギが突然飛び出し、  
文字通り脱兎のごとく走り回る  
姿が見られる。途中の木には熊  
の爪痕やブナの実を木の上で食

した「熊棚」もあり、熊の生息  
域に足を踏み入れている実感に、  
思わずドキドキ！冬眠中なの  
でその心配はないものの、冗談  
で「熊だ！」と言おうものなら、  
それこそ蜘蛛の子状態で走りだ  
しそうな緊張感が漂う。下山で  
は誰の足跡もない木々の間や雪  
原を自由に歩き、ささやかなが  
ら一時の開放感を楽しんでくる。  
**東** 北の冬は長く厳しい。だ  
が思い切って外に飛び出  
せば、炬燵にしがみついても絶  
対に見ることの出来ない、素晴  
らしい感動の世界が待っている。

案内人  
中村 実さん  
Nakamura Minoru  
鳥海やわたインタープリター協会 会長

協会は平成12年に設立。運営する37名の  
ボランティア会員は、山、川、花、鳥、料理等  
に秀で、「出番が来ると率先して駆けてくれ  
る頼もしい仲間たち」。



真白な山の深雪に遊べば  
そこには素晴らしい  
感動の世界が待っている。

**東** 北の冬は、長く厳しい。  
東北人特有の粘り強さと  
寡黙は、この長い冬に關係する、  
とある本に書いてあったが、こ  
の一文は妙に説得力があるよう  
に思える。暖冬とはいえやはり  
冬であり、この季節をどのよう  
に過ごすかは人さまざま。炬燵  
に入りじっくり本を読むもよし、  
雪を見ながら音楽の調べに耳を  
傾けるのもまた、良しである。  
しかし、たまには平地の雪と  
はひと味違う、真白な山の深雪  
に遊んでみるのはどうだろう。  
私たちの「鳥海やわたインタ

ープリター協会」は、八幡地区  
をフィールドに、年間を通して  
自然観察や楽しみ方を実践し、  
多くの人たちに自然の素晴らし  
さを体験していただいている。  
**八** 幡地区といえはさすがに思  
い浮かぶのが鳥海山、玉  
簾の滝、イヌワシ、そして豊か  
な自然であろう。懐が深く雄大  
な鳥海山は四季折々に表情を変  
え、私たちを楽しませてくれる。  
毎年2月に開催している「氷  
瀑の玉簾の滝」見学会では、氷  
柱に覆われた滝とバラ園の見学、  
迎賓館（古い茅葺民家）でおに

ぎりや温かいキノコ汁、いろり  
で焼いたあられ等をふるまうイ  
ベントを行っている。庄内三名



ほぼ完全凍結した氷瀑の「玉簾の滝」観察会。  
清冽な流れが氷結して、青白い幽玄な世界を見せる。



鳳来山頂付近から八幡方面を眺める雪原で登頂の記念撮影。



熊の爪痕



鳳来山の強い風で出来たエビのシツボと  
かろうじて残った枯葉。



団子がたくさん付けば上作という梨団子。阿部家の天井に紅白の梨団子が鮮やかに広がる。



**山の麓にある大きな屋敷は  
地域の文化を伝える大切な場所です。**

元禄3年(1690)年建造の旧阿部家は、「肝煎」をつとめた阿部喜助氏の元住居。当時を象徴する貴重な造りや一向宗信仰の大きな仏間が残るほか、昔の生活用品や農機具が展示されている。

**酒田市指定文化財 旧阿部家**  
 図9:00~16:30 図月曜日 図無料 図酒田市山元字千刈田27  
 図旧阿部家 0234-54-2776

手作りの竹スキーとソリで、里山の圧雪した斜面を滑り降りる。毎年夢中になる子どもたち。

せんべい釣りは、糸を通した針を投げ、ミルクせんべいが釣れた枚数を競う昔からの遊び。

**昔ながらの行事が残る  
旧阿部家の小正月は  
庄内の宝です。**

**酒** 田の街なかで育った私は、数年前から出羽丘陵の麓にある平田地域で驚きいっぱい、の里山体験をしています。そのひとつが田沢川ダムの手前、山元にある旧阿部家(以下阿部家)で、毎年2月11日に行われている昔ながらの小正月です。

冬の山元は雪が深く、雪の隙間に潜り込むように阿部家に入る年もあります。外の真っ白な世界に慣れた目は、阿部家に入った瞬間、真っ暗に変わったかと驚きます。まず、煙の香りが鼻に届き、土間の囲炉裏の火が、そして周囲がじんわり見えてきます。奥からは人々の温かい笑い声が聞こえます。「どうも、お世話になります。小正月さ来ましたあ」



**案内人**  
**小松広幸**さん  
 Komatsu Hiroyuki  
 NPO法人「ひらた里山の会」  
 情報発信事務局

平田・中山間地の観光資源を発掘、発信中。地元団体への橋渡しも行っている。週末はご夫婦で野菜づくりや竹細工、土器焼きを行うなど、ひらた里山ライフを満喫。

**座** 「おう、はれ、はれ(入れ)」  
 敷は紅白の餅が付けれられ、た大きな梨団子(団子木)で華やかに飾られています。地元の子どもたちが真ん中に、すぐ隣には市内から参加した子どもがお母さんと一緒に照れくさそうに混ざって遊んでいます。行事を運営しているのは、「旧阿部家の四季を楽しむ会」と地元の方々の「せんべい釣りは知ってますか」と昔の遊びを教えてください。子どもたちは先生を真剣に見ています。たまに先生が失敗すると大爆笑。もつと年配の方は、茶の間の囲炉裏を囲み、座敷の様子に温かい眼差しを送ってくれています。素晴らしい空間です。

**小** 正月の合間には竹スキーやソリ遊び、中ではお手玉などをして遊びます。「昔は自分たちで竹スキーを作ってたんだ」という話を聞くだけでなく、子どもたちも実際に竹スキーで当時滑った場所を滑ります。それが思い出の共有、そして文化の伝承に繋がります。

身体が資本であり、自然が生活の中心にあります。ここでは、それが過去の中心ではありません。



12月17日の「だるま市」は、「七転び八起き」にあやかったことに由来するという七日町観音堂（鶴岡市本町）の例祭。境内にはだるまや羽子板などの縁起物の出店が並ぶ。

**「ハ」** タハタの湯あげが食べたの冬の始まり。白子ブリ子（雌雌）の好みはあれど、湯気を立ててほろりとほじけるゼラチン質の上品な身に醤油をたらり、箸で口に放り込んだら爛れた日本酒でつるりと流し込むこの喜びよ！ああ、庄内人でよかつた…。

このハタハタが欠かせない行事が「大黒はんのお歳夜」。ハタハタの田楽とカラトリの入った納豆汁が決まりごとで、「豆腐田楽や黒豆ごはんも用意し、二股大根をお供えします。すり鉢で納豆をあたる手伝いを言いつかるたびに、くさいなあ、嫌だなあと思った子ども時代が懐かしい。また、この日の子どものおやつは「沢庵」でした。漬物になぞらえたこのお菓子の正体は、青きな粉をまぶした、大きなおこし。いかにも庶民派、しかし現代にあつてはなんと健康的な菓子でしょう。

「だるま市」の切山椒やあん玉も思い出深い味。切山椒はこの季節のもので、あん玉は1年を通して見かけます。ちなみにこのあん玉、私は庄内以外でお目にかかったことがありません。

**「年」** が明け、小正月も過ぎると皆がウワゴトのように寒鯔寒鯔と言ひ出します。不思議なもので、1年の中でもぐんと風雪の厳しい1月末の鯔が一番おいしいのです。吹雪に耐えたご褒美のような鯔。アラと内蔵はその日のうちに「どんがら汁」に。身は切り分けて酒粕や味噌に漬けて後日いただきます。この季節になると、まぶたの裏に浮かぶのは祖母の後ろ姿です。三瀬の「坂本屋」の出身だった祖母は、魚にはこだわりがあり、寒鯔ともなると目の色を変えて包丁を握るものでした。体が弱かったはずなのに「寒鯔をさばくには台所は手狭」と厳寒をいとわず外に出て行くのは、寒鯔の魔法だったのでしょうか。こうして仕立てたどんがら汁は、ふんわり酒粕が香り、刻み芹とこれまた厳冬の磯で摘み取

季節になると、まぶたの裏に浮かぶのは祖母の後ろ姿です。

られた岩のりが花を添えます。「きくわた」「だだみ」「たつ」と呼ばれる白子、「あぶらわた」と呼ばれる肝臓はいわばハイライト、最高のごちそう。うつとりと湯気を囲む家族を見渡す祖母の顔は満足げでした。

**「そ」** うこうするうちに新酒が出回り、黒川能や黒森歌舞伎のニュースが街を賑わすと、もう春の足音が聞こえてきます。北国の長い冬の台所はおいしいもので忙しく、「冬の食卓」と聞いただけで口中に唾がわいてくるのが庄内人の性。体内時計が「なつても（なんととしても）食ねまね」とせき立てる。そう、胃袋が冬を恋しがりますのです。

「なつても食ねまね」と、せきたてる冬を恋しがる胃袋。

案内人  
**荻原和歌さん**  
Ogiwara Waka  
料理研究家

鶴岡市出身。料理好きはお祖父様の影響で、フリーライター時代には雑誌に料理関連の連載を執筆。現在は首都圏を中心に、飲食店のフードコーディネーターとしても活躍。



庄内では厳冬にあがるマダラを寒鯔といひ、身からアラ、内蔵まで「寒鯔汁」にして丸ごと食べつくす。1月から各地で「寒鯔まつり」が行われ、寒い中であつあつの寒鯔汁をほお張るのが冬の慣わし。  
※寒鯔まつりの情報は41ページでご紹介しています。

願いをこめた行事食、滋味深い厳冬の旬。庄内の冬の味は、知恵と温もりに満ちています。

12月9日の大黒様のお歳夜には、黒豆のご馳走などをお膳にお供えし、商売繁盛や子孫繁栄、家族がマメに達者に暮らせるよう願いを込めます。

ハタハタの湯あげは走りの時期の調理法で、その旨みをたっぷり味わえる郷土料理。

鶴岡名物「あんたま」。別名さんつま焼きともいい、明治のはじめから鶴岡で受け継がれてきた、山椒が薫る餅菓子。

たくあん、と呼ばれる玄米おこしと、「だるま市」で売られる切山椒。明治のはじめから鶴岡で受け継がれてきた、山椒が薫る餅菓子。

撮影＝Cradle編集部



## プティポアンの フレーバーティー

紅茶とバラの花びらとハーブ。  
プティポアンのオリジナルフレーバーティーは  
身も心も硬くなりがちなの季節に  
優雅でやさしい時間を招く、ありがたい特効薬

よく「香りは記憶を呼び覚ます」といわれるが、それは五感のなかでも嗅覚だけが脳の本能をつかさどる部分にダイレクトに届くからだという。その分、快い香りは脳疲労を癒し、気分を明るく、リラックスさせる。フレーバーティーは、香りを持つこの力を生かした紅茶のことだ。

そもそもフレーバーとはフレグランスが化粧品香料なのに対し、果実や花から精油した安全性の高い食品香料のことを示す。フレーバーティーの場合は茶葉に香料をふりかけて香りを付けるわけだが、プティポアンの佐藤恵美子さんはそこにさらに美容効果の高いバラの花びらと、薬膳効果の高いハーブを組み合わせ、オリジナルを作っている。「もともと香りが好きで、お茶の時間もバラの花も好きだから、自分の「好き」を詰め込んだものを作って、皆さんにお届けしたいと始めました。せっかく飲むのなら体に良いものをと、さまざまなハーブをブレンドしています」。

今冬のおすすめは、乾燥した生姜と温州みかんの皮、風邪予防に効くハーブなど数種をブレンドした「ボヌール・ジャンジャンブル」。妊婦さんや就寝前にも安心して飲めるようにと、試行錯誤を経て完成させた新作デカフェティーだ。フレーバーのさわやかな香りと生姜のピリリ感が冷えた体にじんわり広がり、体を温めてくれる。

雪舞う景色を眺めながらくつろぐ、静かなティータイム。プティポアンの紅茶が、体と心をふんわりと包んでくれるのは、「紅茶もバラもハーブも、すべてが地球からの贈り物です」と微笑む佐藤さんの、やわらかな愛情のおかげかも。



写真の紅茶「ボヌール・ジャンジャンブル」は、デカフェティー（カフェインレス）のため就寝前や妊婦さん、お子さんにもおすすめ。カラフルなドライフルーツを紅茶に添えて。酒田市東泉町のお店では、フレーバーティー、日本茶などのお茶類を約50種と、ティーグッズなどを販売。オリジナルブレンドティーはHPからもお取り寄せできます。

<http://www.petit-point.net>

プティポアン ☎0234-23-6706





庄内写真季行 7 摩耶山

稀に晴れた日、白い壁が輝くその様は、まるで摩耶姫の微笑のよう。

お釈迦様の生母の名に由来するといわれる摩耶山は、日本三百名山に数えられる。日本海と平行する山並みには季節風が直接あたり、崩落を繰り返した豪雪が急峻な岩壁となって、見るものを圧倒する。倉沢口からの登山道は

梯子と鎖が連続する上級者向けの道程であるが、10月末には梯子が撤去され、厳冬期は人を拒み続ける。稀に晴れた日、白い壁が輝くその様は、まるで摩耶姫の微笑みのようで、いつまでも見飽きることがない。